

# 「校内研究のまとめ」より

## 本研究のまとめ

今年度から新しく校内研究を始めるにあたり、全職員で構想を考えるとところから校内研究がスタートしました。「金銭教育とは何か」、まずはそこからのスタートでした。

研修を重ねるにつれ、金銭教育のイメージや児童の実態を大切に「めざす児童像」の具現化、そして、めざす児童像に近づけるべく学年部毎の目標の設定と年間指導計画の作成など、充実した研究になりました。

中でも、新しい学習指導要領のキーである「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を意識した指導方法の工夫は、金銭教育のみならず、他の教科・領域でも応用可能な手立てとして、その具体策が明らかになりつつあります。

金銭教育ならではの「What to teach」にあたる金銭教育年間指導計画の確立と、金銭教育の目標を達成する指導法のひとつである「How to teach」にあたる視点1～3の指導法の提案は、授業改善において、とても意義のあるものとなりました。

今後の課題として、年間指導計画と指導法には、まだ改善の余地があると思います。また、全職員による校内研究という点では、それぞれの専門部が有効に機能していくよう、組織の強化を図りたいと思います。

研究主任 教諭 溝口 直樹

## 校長から

本校の金銭教育の特長は、本校の特色ある教育課程である「未来志向のふるさと教育」に基づいて推進しているところです。また、「未来志向の金銭教育」としての授業実践であり、授業改善の試みとしての「提案」でもあります。

本研究では、「未来の創り手」である子どもたちの育成を目指し、各教科・領域において「人とのつながり」「地域とのつながり」「未来とのつながり」を基盤とした「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善が図られるように工夫しました。

未来志向の金銭教育として「3つのつながり」を基盤とし、学校目標の具現化に向けて職員一同、ONE TEAM で取り組んで参ります。

令和3年3月 校長 菊田 裕幸